

令和7年度 苫小牧市立北光小学校 学校経営方針

1 学校経営方針

當時マスクの生活、3密を避けた行動、教育活動の制限という新型コロナウイルス感染症を意識した生活は終わりを告げ、学校現場には以前のような日常が戻ってきた。すべてがコロナ前に戻ることが望ましいとは考えないが、古い常識と新しい考え方が混じり合い、学校、そして世の中には【変化】が求められ『新しい時代の学校生活』が生み出され、進められていくこととなる。

多様性、個性化の時代で社会は日進月歩でいろいろな姿へと変貌を遂げている。そんな時代をこれから生きていく子どもたちは常に『自分らしさ』をもち、日々変化をしていく予測困難な社会を乗り越えていく力が求められている。我々は今後も子どもたちが過ごしていく新しい時代に向けて柔軟に対応できる組織作りを進めていかなくてはならない。

変化の激しい未来社会において、その時代を生きていく子ども達をどう育てていくか。これがこれからのが課題となってくる。『教育は人なり』の言葉通り、教育に最も大切なのはそれぞれの【人間性・主体性】であり、【協働性・実践力】である。どんな人と出会い、それの人たちとどのように関わり、どんなことを学ぶのか。人ととのより良い関係（信頼関係）を作り、どのように進めていくことができるかどうかによってその成否が決まると言われている。

人は人によって支えられ、人の間で人間として磨かれていく。どんな人と出会い、どんな経験をするかがとても大事

TBS ドラマ 『3年B組 金八先生』より

児童数の多い本校であるが、子ども達にはこれからの中多様性の時代において、異なる立場や言語、思考や文化、そして価値観……これらの境目を越え互いに尊重しあい、多様な人間と対話し、協働する力が求められている。このもとになるのが子ども達一人一人が持つ優しさや真面目さなどの『人間性』、いろいろな人たちと関わり、ともに協力しあい課題を解決していく『協働性』そして素早く行動に移すことができる『実践力』である。

多様化、ICT化と変化の激しい時代であるが、そのような時代にあっても子どもたち一人一人が自分自身をしっかりともち、互いに協力し合い相手の気持ちや様子を考えながら生活していくことができる社会、子どもたち一人一人の個性や特徴などが埋没することのない個が尊重される社会こそ、これから本校の子ども達が拓いていく【未来の姿】と考える。

そんな未来を自らの力で切り開いていくような力（資質・能力）をもった子ども達を育成していくたい。

2 学校経営の方針

『未来の社会を拓く北光の子』の育成 ～子どもが伸びる学校 を目指して～

☆苦小牧市教育大綱 基本理念…【未来の社会をつくるひとづくり】

※『未来の社会』…現在の社会は10年で大きく変化し、10年前にはなかったもの、考えられなかったことが次々と現実のものとなっている。
また、「変動的で不確実、複雑で曖昧」を意味し、目まぐるしく変化する予測困難な時代（VUCAの時代）を意味する。

V =Volatility : (ボラティリティ)	不安定
U =Uncertainty : (アンサーテンティ)	不確実
C =Complexity : (コンプレキシティ)	複雑
A =Ambiguity : (アンビギュイティ)	曖昧

そんな曖昧で不確かな時代であるが、多様性を理解し、ともに手を取り合って自らの手で切り開いていくような力（資質・能力）をもった北光小学校の子ども達を育成していきたい。

※子どもたちが「伸びる」学校を作るための3要素として

・教師の安定した授業力（学力⇒知識・技能だけにとらわれず、学びに向かう力、人間性の向上）

⇒○子ども達が自主的・主体的に取り組むことができる安定した授業実践

○今求められている『令和の日本型教育』の実践、授業改善、授業改革

・職員の心身ともの健康（豊かな心の育成）

⇒○働き方改革⇒子ども達の教育に帰っていくこと

※無駄を省き、生み出し、変更し、やりがい、働きがいのある学校に

○風通しの良い職場環境（情報の共有、助け合い、メンタルヘルス、心理的安全性）

・保守的⇒革新的 停滞⇒1歩を踏み出す

○成功・失敗体験を経験することで達成感、自己肯定感を高めていく

○見通す⇒自己決定する⇒実践する⇒振り返る

※立ち止まってばかりではなく、やってみて振り返る⇒そこから気づくものがある

2 育てたい資質・能力

主体性・協働性・実践力

自ら進んで関わり、変化に対応し行動できる力を身に付けた子どもを育てる。

主体性…自分の考えをもち、進んで行動し、解決策を探っていくこと

協働性…仲間とともに良い方向を目指して進んでいくこと

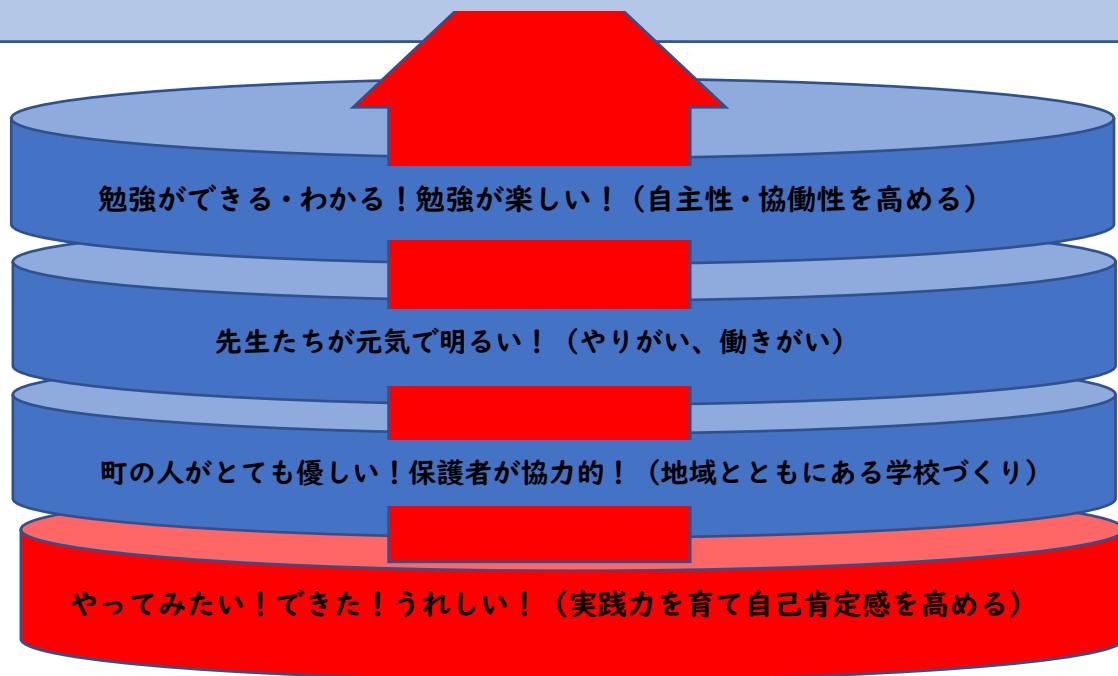
実践力…仲間とともに協力し合い実行に移すこと。

変化に対応し行動できること。

結果を受け入れさらに思考すること。

子どもたちが伸びる北光小学校

みんながわくわくする学校に



令和7年度 重点教育目標

進んで考え、仲間とともに行動できる子どもの育成

学校経営推進のキーワード

SHINKA（進化・深化・真価）と RENDOU（連動）

☆SHINKA

- 『進化』…目指す子ども像に向かって新たに子どもたち、職員、学校全体の力を伸ばしていく。
 - ・令和の日本型教育の推進
 - ・ICT活用の充実
 - ・授業改革
- 『深化』…目的を明確にし、共通して取り組む内容の徹底。今までの取組をより深く、しっかりと。
 - ・学習規律
 - ・挨拶
 - ・いじめ防止
 - ・異学年交流
- 『真価』…子どもが主語の学校づくりのための再検討
 - ・働き方改革
 - ・心理的安全性に裏付けされた職場環境整備
 - ・子ども達の居場所づくり（不登校、不適応）
 - ・運動会、学習発表会

☆RENDOU

- 『連動』…◎児童同士が連動する
 - 協働的な学び、児童会活動、縦割り活動
 - ・子ども達の姿、自主性が見える教育活動
- ◎職員同士が連動する
 - タイムマネジメント、職員の多様性、個を尊重して
- ◎地域と連動する
 - コミュニティ・スクール、地域素材、保護者の活用
 - 関係機関との連携
 - （SC, SSW 医療機関、教育委員会）

3 重点的に身に付けさせたい資質・能力

○主体性と実践力

自分の思いをもち、進んで行動できる子どもを育て『新しい1歩を踏み出す』

- ・主体性…自分の思いをもち、進んで行動し、結果へとつなげていくこと。
- ・実践力…自分の思いを大切にし、仲間のことを考え、仲間とともによい方向を目指して進んでいくこと。
結果や前年踏襲にとらわれず、自分の思いを実現できるように歩みを踏み出していく。

☆一人一人の思いを大切に、心をつなぐ

信頼して、任せて、讃めて、さらに良いものへと高めていく

4 経営及び指導の重点と具体的な方策

A 経営の重点及び具体的な方策

経営指針：地域・学校・家庭が一体となったみんながわくわくする学びの環境づくり

(1) 学校経営・学校運営

【重点目標】

- 教職員個々の持ち味、意欲、発想を大切にした「SHINKA と RENDOU を基盤とした心の通い合う学校づくり」に努める。
- 教職員一人一人の学校経営参画意識、向上意識を高め、心理的安全性の保たれた人間性豊かな教師集団の確立に努める。
- 家庭・地域社会と連携・協働した「みんながわくわくする学校づくり」の推進に努める。
※『みんな』とは北光小学校の児童、職員だけでなく、地域関係者や保護者を含めた本校に関係する人たちを『みんな』と表現する。

【具体的方策】

- ・経営ビジョンを分かりやすく示し、課題を焦点化し共通理解をもとにして連携、協働を基盤とした実践を図る。
- ・職員個々の人間性と創造性を活かして心理的安全性の高まった組織を再構築し、学校全体の教育力を高める。
- ・教職員一人一人の、工夫、改善、共通理解、協働を積み重ね、働きやすい職場、働きがいのある職場づくりに努める。
- ・経営方針や学校評価を基に学校運営協議会で熟議し学校改善に努め、地域素材、地域人材を活用して再び「地域とともにある学校づくり」を推進する。
- ・学校行事だけでなく、多くの授業場面において地域人材、保護者の力を積極的に導入する。

(2) 学級経営・教育活動

【重点目標】

- 学校教育目標の達成を目指し、児童の実態に応じた学校経営方針の具体化、具現化を図る。

【具体的方策】

- ・支持的風土のある学級経営の充実。
- ・子ども達の成長、育成を目指して児童に任せ、実践から充実感、達成感をもち自己肯定感、自己有用感を高めることができる経験を積ませる。
- ・児童一人一人の心が育つ学級経営

(3) 研修活動

【重点目標】

- 教師の変化（資質・能力の向上）を通して、子どもたちの変容につながる研修活動を展開する。

【具体的方策】

- ・日常の授業実践、授業改善に活かされる研修内容の吟味・検討、実践
- ・全教員の積極的な参加や意見交流を図る研修形態の工夫を図る。

(4) 環境整備

【重点目標】

○児童の動きが見える、機能的で落ち着きのある環境整備に努める。

【具体的方策】

- ・知的好奇心を高めたり、夢の実現に向けた挑戦を後押ししたりできる環境整備に努める。

(5) 家庭・地域との連携

【重点目標】

○コミュニティ・スクールの機能を發揮させ、地域、保護者との連携を見直し社会に開かれた教育課程の具現化に努める。

【具体的方策】

- ・計画的な地域人材・地域素材の発掘と活用する。
- ・保護者、地域の力を借りて、子ども達にとって魅力的な教材、授業の再構築と教育課程編成の工夫を行う。

(6) 小中連携・小小連携

【重点目標】

○学校運営協議会の活性化を図り、エリアを意識した小中連携、小小連携に努める。

○校種間の滑らかな接続とそれぞれの学校の特色を生かした教育活動の充実に努める。

【具体的方策】

- ・地域素材、地域人材を活用した授業、行事の再考。
- ・中学校のによる乗り入れ授業、小学校合同のふれあい活動など中学校で一緒に活動することを意識した教育活動の工夫
- ・特別な配慮を要する児童、園児について計画的で丁寧な引継ぎを行う。

(7) 教職員の服務など

【重点目標】

○教育公務員としての自覚と責任ある言動と購入的な服務規律の保持を通して、信頼される学校の継続、発展に努める。

【具体的方策】

- ・法令等に基づいた職務上、身分上の監督を適切に行う。
- ・心理的安全性に基づく信頼感の育成と服務規律保持に向けた職員集団の確立を図る。
- ・服務や各種制度などに関する研修や情報提供を適切に実施する。
- ・教職員自らが率先垂範を励行する。

B 指導の重点及び具体的方策

指導指針：主体性・協働性の向上と 自己肯定感が高まる更なる実践力の育成

(1) 学習指導

【重点目標】

- 主体的、対話的で深い学びを目指した学習指導の工夫・改善を重視し、より**主体性、協働性**、を養うように努める。
- 人とのかかわりを通して主体性と実践力の向上に努める。

【具体的方策】

- ・全学級にて『指導の個別化』と『学習の個性化』を意識した主体的、対話的で深い学びのある授業づくりを推進する。
- ・**個に応じた**基礎・基本の確実な定着
- ・発達段階に応じた学習規律の定着、深化
- ・「できた！わかった！よかった！」が体感できる実践力の向上

(2) 道徳指導

【重点目標】

- 道徳的価値についての理解と自己や日常との関連を重視し、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

【具体的方策】

- ・心地よい挨拶・コミュニケーション活動の進化
- ・他者と関わり合い、協働し、認め合う活動を通して一人一人が連動する。
- ・物事について考えることができる道徳的判断力、よりよい行動に移すことができる道徳的実践力の向上、深化。
- ・異学年交流を意識した学年へ思いやりの気持ち、優しい気持ちで接する。

(3) 特別活動

【重点目標】

- 互いの良さや可能性を認め合う活動や生活上の課題を解決する活動を重視し、**主体性、協働性、実践力の深化、相手のことを思いやる力**の育成に努める。

【具体的方策】

- ・人ととの関わり、つながる（連動する）ことで**主体性、協働性が高まる**学級活動、児童会活動、行事運営に努める。
- ・児童一人一人の活躍の場を作り、児童全体の力を伸ばすことができる、組織の改善、取組を目指す。

(4) 総合的な学習の時間

【重点目標】

- 課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ、表現といった探究活動を重視し、更なる表現活動・発表活動の深化を目指し、主体性、協働性、実践力の向上を目指す。

【具体的方策】

- ・一人一人が課題をはっきりともち、**実体験活動を積極的に実践する。**
- ・まとめ・表現活動を重視し、表現方法を深化させる。**(表現方法の工夫、ICTの効果的な活用)**

(5) 生徒指導

【重点目標】

- 人との関わりを意識して、相手を理解し、思いやる、心のふれあいを大切にした生徒指導の推進を進める。**

【具体的方策】

- ・挨拶、返事、**身の回りの整頓**（特に靴箱、教室環境）を基本に、共通指導として徹底・深化する。
- ・日常の観察から児童の心情に寄り添い、「褒める」・「認める」・「励ます」・「支える」指導を心がけ、一人一人の**自己肯定感が高まる**ような支援の充実
- ・**子ども達一人一人の居場所づくり**、絆づくりを心がけ、いじめを許さない、起こさない児童集団を形成、不登校、不適応を理解する環境づくりをする。

(6) 健康安全指導

【重点目標】

- 日常的な体力向上を進めるとともに、自他ともに安全で主体的、協働的に行動できる実践力を高める。

【具体的方策】

- ・日常的に運動に親しみ、体力作りに取り組める**環境と整え**、**日常生活を通して運動能力の向上に努める。**
- ・**自分自身の健康、安全のについて振り返り**児童一人一人の実践力を高める。

(7) 特別支援教育

【重点目標】

- 一人一人の教育的ニーズを把握し、児童の自立や社会参画に向けた適切な支援と指導体制の構築に努める。

【具体的方策】

- ・児童や保護者の困り感に寄り添った個別の指導計画を丁寧に策定し、組織的、計画的な支援を行う。
- ・コーディネーターを中心に情報交流を密にし、外部の関係機関との連携を密にして支援の**充実・発展**を図る。
- ・通常学級に在籍する特別な配慮を要する児童、その他不適応などの児童に対する**共通理解**や**支援の充実**を図る。
- ・関係機関と連動し、適切な学びの場の提供に努める。

5 具体的な変更・改善点

A 主に経営に関するこ

(1) 学校経営・学校運営

- より心理的安全性の保たれた組織運営を行い、『SHINKA(深化・進化・真価)とRENDOU(連動)』を基盤とし、職員一人一人の人間性あふれ、つながりの見える組織作りをする。
- 地域素材・人材を学習に取り入れ、地域・学校・家庭が一体となった『みんながわくわくする学校づくり』を進める。

(2) 学級経営・教育活動

- 土台をしっかりと固めた上での（通常の学年、学級経営、一斉授業を大切に）児童が主体的、協働的に活動し自己肯定感、自己有用感を高めることができる行事、取組の実践。（高学年特に6年生の成長に期待）
- 『思いやりの気持ち、わくわくがあふれる』雰囲気づくり、企画、実現をさせ積極的な学校参画をさせる。（学校が楽しい、いじめ撲滅、地域連携、不適応対応）

(3) 研修活動

- 知識や情報をどうつなぎ論拠をもつか。結論を導き出しどう概念を作り出していくかをいう子ども達の資質・能力を高めることができる授業づくり、組織づくり。

(4) 環境整備

- 子どもたちの日常、活動が見える環境づくり
- 児童会、委員会など子ども達の主体性が見える環境づくり

(5) 家庭・地域との連携

- 教育課程への積極的な参加の啓発、協力依頼

(6) 小中、小小の連携

(7) 教職員の服務

B 指導に関するこ

(1) 学習指導

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の実現を目指した授業スタイルの追求
個に応じた指導方法の工夫（自己調整、自己決定場面の積極的な設定）
- 家庭学習の工夫（端末活用の効果的な家庭学習の推進、オンライン授業の推進）

(2) 道徳教育

- 思いやりの気持ちが見える環境づくり

(3) 特別活動

- 児童一人一人の活躍の場を作り、高学年の力（主体性・協働性・実践力）を伸ばすことができる行事、企画の実践。

(4) 総合的な学習の時間

- 本校の特色ある教育の再構築
- 地域人材・地域素材を活用した教育活動の実践

(5) 生徒指導

- 児童の思いやり、絆づくりを進める（運動会、縦割り活動、児童会活動など）

(6) 健康安全指導

(7) 特別支援教育

- 児童一人一人の特性に応じた関係機関との連携、保護者との連携
- 児童の困り感に応じた対応と共通理解

6 達成指標

《学習》

- ・標準学力検査…前年度（前学年達成状況）以上

《児童アンケート》

- ③『学校のきまりを守り、あいさつもきちんとしている』の【そう思う】の割合を80%以上にする
- ⑤『いじめなどをしないで、みんなで仲良くしようと努力している』の【そう思う】の割合を85%以上にする。
- ⑯『地域の方やいろいろな施設での学習、外部講師の方との学習は楽しい』の【そう思う】の割合を80%以上にする。

《保護者評価》

- 2 『お子さんは、挨拶をきちんとしている』の【そう思う】の割合を50%以上にする

- 10 『学校は、いじめ防止の取組に努めている』の【そう思う】の割合を50%以上にする。

《職員評価》

一人一人のニーズに応じた確かな学力の育成

- 2-②『一部教科担任制（交換授業）による指導の積極的な運用』の【当てはまらない、あまり当てはまらない】の評価を0にする。

- 3-①『子どもの状態像及び狙いを踏まえた計画的、組織的で持続可能な交流及び共同学習の推進』

- 3-②『すべての教員の特別支援教育に関する専門性の向上』の2つの項目でどちらも【当てはまらない、あまり当てはまらない】の評価を0にする

豊かな人間性の育成

- 2-①『集団生活のルール、マナーの徹底』の【よくあてはまる、当てはまる】の評価を合わせて80%以上にする

家庭・地域との連携・協働

- 1-③『地域素材、地域人材等教育資源の積極的活用』の【あまり当てはまらない】の評価を0にする

- 2-1 『家庭や地域への学校経営方針の説明』の【あまり当てはまらない】の評価を0にする